

# 長月

〔ながつき〕 令和3年9月

秋も深くなると日が暮れるのも早くなり、長時間にわたって月が見られるのでこの名があります。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

すなほなる身をそのままに  
すなほなれと教ゆる道も亦すなほなる

若林強齋和歌

## 今月のことば

すなほなる身をそのままに、  
すなほなれと教ゆる道も亦すなほなる

若林強齋和歌

この和歌は、人間は素直さが一番だと説いている。素直とは人間が有るのままの心を持ち、ありのままの生活をするのが最も望ましい、というのである。

「ありのままの心」とは、神から魂を戴いて、この世に生まれた以上、「神の心のままの心」を持つことが一番だとしたものである。

「神の心」とは何か。一般にいう清浄、正直でもよい。「有り難いという心」を持つべきであるとしてもよい。神から戴いた魂である以上、「俺が」という我を持つべきでないとする、そのすべては、「素直な心」である。

人間は「素直になれ」と神が教えられているからには、素直な心、素直な考えで生きるより外に道はない。

(続神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋)

## 季節のまつり

### 重陽

九月九日

不老長寿を願う

「重陽の節供」

陽は「生」を意味し、陽の最大数である九が二つ重なることから「重陽」と呼ばれ、九月九日は非常に縁起のよい日とされ、この日は「登高」といって高い山に登ったり、寿命をのばすといわれる菊の花を浮かべた酒を飲んで不老長寿を願いました。また、「おくんち」と呼ぶ秋の収穫を祝う氏神祭の日として、栗飯を炊き、菊酒を飲んで祝ったところから、菊節供・栗節供とも呼ばれています。

### 月見

九月二十一日

豊作を祈る収穫祭  
「十五夜」

旧暦八月十五日はちょうど満月に当ります。今年も九月二十一日で、この日を「十五夜」、「中秋の名月」と呼び、各地でお月見の行事が行われます。豊作の象徴である満月に秋の七草（はぎ・おばな・くず・なでしこ・ききょう・おみなえし・ふじばかま）やだんご、季節の野菜などを供えて豊作を祈るお祭りです。だんごは、ちょうどこの頃収穫される里芋を炊いて供えたのが原型とされていたことから「芋名月」とも呼ばれ、すすきの穂は、稲穂の変化したものとされています。

## 「お彼岸」に感謝の祈り

彼岸は、春分・秋分の前日・後日を含めた七日間で、今年の秋の彼岸は『九月二十日〜二十六日』です。最初の日を「彼岸入り」、最後の日を「彼岸明け」、真ん中あたりの春分・秋分を「彼岸の中」（ちゅうにち）といいます。「彼岸」とは仏教用語で向こうの岸という意味で、一切の悩みを捨て去って悟りの境地に達することをいいます。この極楽浄土は西方遙か彼方にあるとされているため、太陽が真西に沈む春分・秋分にお墓参りや先祖供養を行うようになりました。

この信仰は日本独自のもので、日本古来の祖先信仰と、彼岸は「日願」でもあるため、太陽の神を信仰する神道と結びつき、秋の収穫や自然に対する感謝の祈りが、祖先に感謝する気持ちにもつながって、大切な行事となりました。「中日」に夕陽を拝むと功德があるとされています。

## 清心事達

清い心を持ち続ける  
ことの意味。



萩

参考文献

『くらしと祭り百話』 小野迪夫（神社新報社）  
『日本人数のしきたり』 飯倉晴武（青春出版社）

令和 3 年  
2021年

# 9 月

日	月	火	水	木	金	土
			1 先勝 ね	2 友引 うし	3 先負 とら	4 仏滅 う
5 大安 たつ	6 赤口 み	7 友引 白露 うま	8 先負 ひつじ	9 仏滅 重陽 さる	10 大安 二百二十日 とり	11 赤口 いぬ
12 先勝 る	13 友引 ね	14 先負 うし	15 仏滅 三りんぼう とら	16 大安 う	17 赤口 たつ	18 先勝 み
19 友引 うま	20 先負 敬老の日 彼岸入り ひつじ	21 仏滅 十五夜 さる	22 大安 とり	23 赤口 秋分の日 秋分 いぬ	24 先勝 る	25 友引 ね
26 先負 彼岸明け うし	27 仏滅 三りんぼう 社日 とら	28 大安 う	29 赤口 たつ	30 先勝 み		

## 二十四節気

【白露 はくろ】… 廿日

旧暦八月酉の月の正節で、秋分前の十五日目にあたります。白露はへしらつゆの意で、秋気も本格的に加わり、野草に宿るしらつゆが秋のおもひきをひとしお感じさせます。

【秋分 しゅうぶん】… 二十三日

旧暦八月酉の月の中気で、この日は秋の彼岸の中日で国民の祝日にも定められ、祖先をうやまい、亡くなった人の霊をしのぶ日にあてられています。またこの日は春分と同じく、昼と夜の長さがほぼ等しく、この日を境にして徐々に昼が短く、夜が長くなっていきます。

## 六曜・選日

《六曜》

【先勝】… 諸事急ぐことによし、午後よりわるし

【友引】… 朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む

【先負】… 諸事静かなることによし、午後大吉

【仏滅】… 万事凶、患えば長びくおそれあり

【大安】… 何事をするのにも吉の日、大吉日

【赤口】… 諸事油断すべからず、正午のみ吉

《選日の吉凶》

【三りんぼう】… 三隣亡日、普請始め、棟上大吉日

## 9月の季語・時隙の挨拶

初秋、新秋、仲秋、秋冷、秋分  
白露、秋涼、秋霜、早涼、清涼  
新涼の候／新秋のみぎり／秋色  
次第に濃くなり／台風の季節に  
なりました／虫の音もようやく  
繁くなり／いつのまにか秋の気  
配が漂い・・・など

## 安産祈願 9月の戌の日

11日(土)  
23日(木)

\*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をしております。神社にお問い合わせください。

### 《20日 敬老の日》

多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日です。

### 《23日 秋分の日》

祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ日です。

● 祝祭日には国旗を掲げましょう

## 「春社と秋社」社日とは？

社日(しゃにち・しゃじつ)とは、

春分・秋分に最も近い戌(つちのえ)の日で、土地の神様をまつる日です。

春の社日を春社、秋の社日を秋社と呼び、春社には五穀の種子をまつって、その豊熟を祈り、秋社には初穂を供えてその成熟を祝う行事が行われます。

農耕民族である日本では、各地でその地域によって違いはあるものの、土地の神様を信仰する風習は全国各地で根付いており、重要な農耕儀礼として現在でも様々な神事や行事が行われています。

又、この日は「土の神」をまつるの

で、農作業を忌むという風習があります。農作業の手を休めて産土神に参拝し、五穀豊穡を祈り大地の恵みに感謝をします。農家にとっては暦の上でも重要な節目の日となっています。